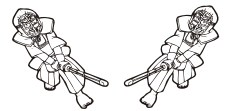




題字：細川武敏 (41 期) 筆  
OB 会報誌 第 22 号  
平成 26 年 12 月 1 日 発行  
制作：会報編集委員  
(株)上田ワードプロセス企画  
TEL. 0268-23-1122 (代)



### 温故知新

会長 羽田敏幸 (六十一期)



三先生 (大正二年) 昭和二十一年まで旧制上田中学の剣道教師

今年、夏、伊藤長資料が上小剣連事務局に届けられ、それが私のところへ回ってきた。その内容の一部を紹介したい。それは、昭和十二年から十九年頃の文部省や県、武徳会からの武道 (剣道) の指導に関する通達や要項と、それに基づいて先生がまとめられた直筆のノート三冊である。その一冊には昭和十二年の上田中学の正課授業の「剣道教授細目」という、一年生から五年生の学年別一年間の毎時間の授業内容が書かれている。それを見ると、各学年ともに基本打ちが重視され学年が進むに従って高度な内容になっている。注目すべきは、基本技の習得・稽古と平行して「形」の稽古にかなりの時間が当てられており、二年生で「太刀の形」を一本目から三本目まで、三年生で四本目から七本目、四年生で「小太刀の形」の一本目から三本目を、そして五年生ではその復習がなされている。実技稽古のほかに講話があり、一年では「剣道の意義・学校における剣道の目的・剣道の特徴・剣道の四戒。二年で「剣道の起源、変遷、発達、打つ機会、三つの先、残心と止心。三年では「剣道によりて養われる諸徳・稽古及び試合の心得・審判規定。四年で刀剣に関する概念。五年になると「剣道発達の概要・術理を詳説し加うるに名人達士の逸話を伝え真の剣道を体得せしむるにつとむ」とある。



伊藤長三先生直筆のノート  
右：昭和十二年度実施長野縣上田中學校剣道教授細目中  
中：昭和十四年文部省要目小學校武道  
左：昭和十九年中等學校體鍊科教授要目剣道

二冊目のノートは、昭和十四年に文部大臣荒木貞夫名で出された「小學校において武道を授くべし」の通達とその内容を書き写したものである。荒木貞夫は陸軍大将であり皇道派の重鎮として、「皇道教育」の強化と軍国主義教育を推進した人物である。実施要項

には、基本動作・応用動作の技術面と講話があり、その講話の内容として「修身、国語、国史等の教材の内容と緊密なる連絡を保ち武道精神の涵養に資すべきものを選び随時におこなうこと」とある。その解説項目として、「殺伐なる蛮勇と神聖なる武勇・聖戦の目的と武道精神・近代国家総力戦と武道精神等が挙げられている。このノートは先生が講師を務めた講習会用にまとめられたものと思う。

三冊目のノートは、その表題に「昭和十九年中等學校體鍊科教授要目 剣道」とあり、当時の授業内容をまとめたものである。昭和十六年以後、体操科は體鍊科と名称が変わり、その教授要旨は「身体を鍛錬し精神を練磨して剛健不撓の心身を育成し国防能力の向上に力め献身奉公の実践力を増進するを以つて要旨とす」とされた。使われている用語も内容も戦時色が強く表れている。現在の「打突」が「斬突」「斬撃」と表現され、稽古や試合も実戦に即応した道場以外の不整地での実施、一人対数人、異種稽古が重視された。試験は卒業までには一度はさせたいと記されている。この三冊のノートによって、戦前における上中の正課授業としての剣道の内容の一端を知ることができた。

今年、春には伊藤先生とともに上小の剣道界の中心となつて武徳会設立、武徳殿建設に貢献された新井守太郎先生の貴重な資料をまとめた「喜寿の安由身」(昭和三十五年上小剣友会発行)の復刻版を限定二十部作製することができた。これは、貴重な資料を何とか保存し後世に残したいという趣旨に賛

同した OB の工藤武和 (六十七期)、佐藤 博 (七十六期) 両氏の絶大な協力を理解ある有志の方々のご援助の賜物である。

国立国会図書館、上田市立図書館、上田市立博物館に納本し保存してもらうこととなった。興味ある方はご利用ください。

### 活動報告

幹事長 山崎完爾 (七十七期)



事務局より平成二十六年年度の OB 会活動につきご報告いたします。まず、年度当初



昭和三十五年上小剣友会 (現・上小剣道連盟) 復刻本の 新井守太郎著『喜寿の安由身』  
平成二十六年四月三十日発行

の四月に役員会を開催いたしました。例年は総会等に向けての準備を進めるための打ち合わせとなりますが、今年度は、当会の OB でもある神津先生が異動により岩村田高校へ転動となり、後任の倉石典広先生、鈴木綾先生は剣道の経験がないことから、現役生の指導体制について OB 会としての協力についても協議をいたしました。その結

果、あくまで OB 会は OB の親睦のための団体という位置づけを確認した上で、会として指導者を派遣するのではなく、何人かの OB に協力を依頼し、個人的な立場で、顧問の先生方には迷惑をおかけしない範囲で協力することとなりました。

毎年度恒例の事業であります宮下杯争奪戦・稽古会及び総会・懇親会につきましては、各担当がそれぞれ準備を進め六月二十八日に開催されました。宮下杯争奪戦では OB 会員に審判団としてご協力をいただき、審判長は六十二期飛田武昭氏にお願いをいたしました。熱戦の結果については別掲にあるとおりですが、争奪戦後の講評では、OB 諸氏より現役生に対するアドバイスをいただきました。

引き続き行われた稽古会では、OB 会員と現役生との熱の入った稽古が行われました。その後、会場を上田温泉祥園に移して OB 会総会及び懇親会が行われました。

総会では、六十一期羽田敏幸会長の挨拶に続き、六十七期工藤武和氏を議長に選出し二十五年度事業報告・決算報告、二十六年事業計画・事業予算について審議をいただき、いくつかご質問、ご意見をいただきました上、事務局案通りご承認をいただきました。また四月から顧問となられた倉石先生、鈴木先生にご挨拶と二十六年度の戦績についてご報告をいただいております。引き続き同じ会場で懇親会が行われ、本年度もご参加をいただきました。大先輩である四十六期の井出賢次氏に乾杯のご発声を頂き、和やかな雰囲気の中で席を移動しながら歓談する光景

が見られました。宴の締めは高槻市からご参加をいただいた六十四期の宮坂昌之氏の万歳でお開きとなりました。

総会・懇親会についてはだんだんと出席者が固定化してきている気がいたします。当会を盛り上げていくためには若い方の力が必要ですので、来年はぜひ同期や仲間にも声を掛け合せて出席をしていただきたいと思います。決して敷居の高い会ではありませんので、気軽に来ていただけたらと思います。

もう一つの大きな事業である「剣風」の発行につきましては、例年九月頃から担当役員を中心に企画、原稿依頼、取材、編集を行っております。「剣風」は OB 会員の皆様への情報発信の一つとして重要なものですので、誌面を充実するため、内容についてのご感想、ご意見をぜひお願ひいたします。

次に運動部 OB 会連合会事業の参加についてご報告いたします。一月二十五日の幹事会に引き続き二月二十二日に総会が祥園にて行われ、当会からも参加をいたしました。総会においては事業・決算報告、事業予定・予算案等が審議されました。OB 会連合会では北信越大会以上の大会への出場班、出場者に対し激励金を送る事業をしてありますが、二十五年度は北信越大会へ剣道班が男女団体及び個人での出場を果たしていることから、現役生に計七万円の支払いがありました。ご報告いたします。また、OB 会連合会では春と秋の二回ゴルフコンペを開催しております。当会からも有志の方々にご参加をいただいております。OB 会連合会の幹事は毎年持ち回りとなっており、二十六年度については

野球部が当番幹事となっております。最後に、会員の皆様には引き続き活動へのご支援、また積極的なご参加についても合わせてお願い申し上げます。ともに、現役生の稽古にご尽力をいただいております会員の皆様に改めて感謝を申し上げ、活動報告とさせていただきます。

○総会でいただいたご意見等について  
総会でいくつかご意見をいただきましたが、その件について役員会を開催し検討させていただきます。結果について、以下のとおりご報告させていただきます。

(一) ホームページの利活用について  
情報発信の重要な一つの手段である、ホームページの利活用があまりされていないのではないかと、というご意見をいただきました。

現在、プロバイダを移転する必要がありますが、大きな変更等ができない状況です。ありますが、なるべく早い時期に移転をし、使い勝手を良くしたりすることを検討してまいります。

(二) 郵送料の削減について  
「剣風」等を会員に送る費用が固定費として大きいので、ホームページの利活用と併せて考えてはいるかがか、というご意見をいただきました。剣風もホームページで見ることができれば送らなくても済むのではないかと、という貴重なご意見です。

確かに郵送料、印刷費は会の予算の中で大きなウエイトを占めます。しかし、当会の状況を考えると、情報を積極的に会員に出すことが重要であり、ホームページを使つての情報発信だけでは受身の体制となつてしまう恐れが

あり、会とのつながりが希薄になつてしまうことも考えられます。ホームページの利活用や電子メール等の有効活用を図ることは、今後の重要な課題となることと考えておりますので、検討してまいります。

(三) OB 会連合会からの激励金の会計処理について  
OB 会連合会から北信越大会への出場に対する激励金については、当会で負担金を支払っているのであれば、当会の決算として出さなければいけないのではないかと、というご意見をいただきました。

OB 会連合会では各班から負担金を徴収し、事業を行っております。当会でも毎年二万円の会費を支払っております。連合会で行う激励金の事業については会則により運営されておりますが、上田高校現役生等の団体、個人に支払うとしており、OB 会連合会から各班、各個人に激励金を渡すもので、実際には OB 連合会の会長が学校の代表に渡すのが通例となっております。

OB 会連合会の事業として現役生に対して渡すものであり、各 OB 会が関与する性質のものではないと考えますので、決算についても今までどおり計上しないことといたします。

以上、ご報告させていただきます。

### 随筆・和親記より 科野大宮の碑から上田の歴史を考察

信州大学 大学院総合工学系研究科 教授 太田和親 (百一期 太田朝裕・父)  
信州上田市にある科野(しなの)大宮さんは、上田市で最も古い神社のようです。創建は 2100 年くらい前のよ

うですが、いつ頃建てられたものかはつきりしないそうです。そこで、神社の境内にある石碑を最近読んでみました。この碑文には、信州の歴史や日本国が成立した当時のことが書かれており、本当に面白いものです。この碑文から上田の歴史、ひいては信州の歴史について、非常に考えさせられました。碑文の原文は難しい漢文書き下し文ですので、後の方で詳しく解説していきます。後でじっくり読んでみてください。まず、ここではその碑文に出てくる古須波という地名と古代に上田に遷都しようとした歴史を見てみます。



#### (1) 古須波考

まず、科野大宮の碑には大変驚くべきことが書かれています。この上田の大宮さんがあった土地を「古須波」、すなわち「こすわ」と言ったとあります。漢文を書き下すときにこうなったので、「古須波」は「いにしえはすわ」と読むのかもしれませんが、昔はここを「すわ」といったという意味なのかもしれません。どちらにしても、この地は「すわ」と呼ばれていたのです。長野県で、「すわ」といえば御柱おんばしら(祭の諏訪ですよ。この現在の中信の諏訪より古い「すわ」が東信の上田にあったということになります。そこで上田市内で現存する「すわ」という地名を調べてみると、1 諏訪形、2 諏訪部、諏訪泉神社、諏訪部橋、3 上須波橋、下須波橋(市内矢



科野大宮社 (上田市常田)

出沢川に架かる)、4 古須波、須波ヶ岡(科野大宮さんのある土地の古名)と、以上 4ヶ所にあります。またその後、郷土史「富士山村の歴史」という本で知つたのですが、10 世紀に作られた「和名類聚抄」によると、信濃国には十郡があり、その内の小県(ちいさがた)郡は、さらに八郷に分れていたそうです。その八郷は、童女(おうな、旧東部町)、山家(やまが、現真田町)、須羽(すは、現上田市の千曲川北岸一帯)、跡部(あとべ、現青木村)、安宗(あそ、塩田平南部一帯)、福田(ふくだ、塩田平北部一帯)、海部(あまべ、現丸子町)、餘部(あまるべ、現武石村+現和田村+現長門町)だったそうです。従つて、10 世紀頃までは、上田田市街地一帯は須羽(すは)郷と呼ばれ、上田の地にかつて「すわ」という地名が、実在したことを知りました。

しかし、一体、「すわ」という言葉はどういう意味なのでしょう。インターネットで調べてみました。ホームページ [http://www.004.upp.so-net.ne.jp/dhistory/hasht\\_01.htm](http://www.004.upp.so-net.ne.jp/dhistory/hasht_01.htm) による

と、「諏訪」は広く大勢に相談し物事を決める事」を意味するそうです。合議制で村や集団の政治をするということなのでしょう。また、海野宿に在住の郷土史家宮下なほ子氏によると、スワは何とスワヒリ語で、川岸が崖になった場所をいい、船着き場に利用された所だとのこと(2004年9月4日聞取)。上田城の下に崖がありますが、昔はこの崖の真下を千曲川が流れていて、尼ヶ淵と呼ばれていました。このような所を「スワ」というのだそうです。「すわ」という地名がこの意味だと、このあたりを代表する目印(ランドマーク)は尼ヶ淵だったに違いなく、推定旧名の「すは」は、地形と地名がぴったりとなります。こつちの方が、納得がいきます。

さて、上田市内の諏訪部の高橋近くに有る標札によると、ここ上田に、最初に来た弥生人は、諏訪族だったそうです。今から2100年ほど前、縄文人が住んでいたここ信州に、初めて弥生人が来て入植した。その人たちは諏訪族で、氏神を祭るため神社を建てた。科野大宮の碑文と考えあわせると、諏訪族が建てた神社が科野大宮の前身だということになります。神社というのは、今余り現代人は意識しませんが、上田市内の神社を回っていると、集落ごとに、必ず神社が建っていることに気がきます。その神社の名前は必ずその集落の名前あるいはその集落の有力氏族の名前が付いています。従って、稲作をして定住生活をする弥生人にとって、土地の神様を祭り氏族の祖先を祭り集落が安寧に暮らせるように祈る、精神的支柱としての場所が、集落ごと

に必ず必要だったに違いありません。明治時代から大正時代にかけて合祀令というのがありました。これは、明治39年制定され、全国の神社を無理やり半減させた悪法で、南方熊楠が大反対したので、後の大正7年に廃止された法令です。2004年7月21日放送のNHK「その時歴史が動いた」世界遺産熊野の森を守れ〜南方熊楠・日本初の自然保護運動〜にも取り上げられました。この合祀令以前は、全国的にそれこそ集落ごとに必ず産土神(うぶすながみ)や氏神を祀る神社があったのです。従って、科野大宮は、約2100年前に諏訪族が建てた神社で氏神をまつたものがその前身と考えられます。

〜(中略)〜



「科野大宮の碑」の原文

以上、古須波という地名と古代に上田に遷都しようとした歴史を見てきました。私はこのようなことを、上田に住んで二十年以上になりますが全く聞いたこともなく、知りませんでした。大変興味深いことで、本当に色々考えさせられました。その他にも大変興味深いことが、「科野大宮の碑」には宝石のようにちりばめられて書かれています。そこで、以下に、この「科野大宮の碑」の原文を皆さんと読んでみたいと思います。

しかし戦後生れの私には、とても難しくして解説に大変往生しました。漢文の書き下しというだけでなく、使われている平仮名が、平家物語の頃に使われていたような歴史的なもので、馴染みが殆どないためです。例えば、「な」は「奈」を崩したもの、「し」は「志」の崩したもの。このあたりならまだ想像が出来ますが、元の字が想像できない「の」、「を」、「と」の変体仮名が随所に使われていて、もう戦後生れの人にはすら読めるといえるものではありませんでした。大正五年生まれの亡父が戦前の満州時代に書いた手紙が沢山、最近になって親戚の家から出てきて、私に譲られました。これらの中にこのような変体仮名がよく使われていて、大変苦勞してやっと読みました。

私は昭和二十七年生れで戦後教育を受けたもので、歴史的仮名遣いなどにはなじみはありませんが、そのようなことをかすかに覚えていた最後の世代かと思われま。もつとの戦後の生れの人には多分完全にお手上げのように思います。そこで、私が何とか読み取って現代の仮名に改めた科野大宮の碑文を下に示します。読んでみて下さい。

科野大宮の碑 大勲位彰仁親王 象額  
崇神天皇の七年詔して国ツ社を定めたまふ科野ノ国造建五百建命令を奉じて大己貴命事代主命を祀る社を創建して以て当国鎮護の社となす爾來国造県主租賦を奉じて以て祭を修む科野は後信濃と改めたりしも社に科野と号するは其の旧を存せしなり常田は古須波と稱す社の地高く平かにして傍らに国衙あり故に須波ヶ岡と号し又国衙台と曰ふ

天武天皇十三年都を科野に遷さんと欲す小紫三野王小錦下采女朝臣筑羅を遣はして地形を相せしむ二人岡に至り圖を製し社に祈る果して吉なり還りて奏し為に神戸を置く其の社を撰する六所と曰ふ国司祀典を修む文治中常田は八須波條院璋子内親王の莊田たり故に常田の莊と稱す内親王華表を山上に建つ社を距ること南三百歩ばかり鳥居場と稱するは旧址なり康安二年二月鎌倉管領足利基氏彗星を祓除す其の書科野大宮と記す大宮の稱たる已に久しきなり旧記に云く社城南北八丁東西六丁と承平の乱將門兵を起す京に入らんと欲し道をここに取る他田ノ真樹は小泉に国造たりし他田ノ大鴨の裔なり平ノ貞盛を助け將門を国衙台の下常田の河原に撃ちて大いに之を破る社域之が為に荒廢す享祿天文の間本郡の豪族上田常田海野真田の諸氏隣郡村上氏の族と封地を争ふ戦闘して止まず天正元年再び之を建つ真田氏徳川氏と數々戦うに及びて頽廢し復修むる者なし而して修理の費祭祀の料は盡く租賦に取る古例を修るなり毎年正月十五日藩主自ら奉幣の典を挙げ明治の朝に至りて廢す常田の諸氏其の事跡の煙滅せんことを恐れ余に請ひて梗概を叙し銅碑に鐫りて以て後に伝へしむと云う

の門下文学士小林勝人氏を煩し国文に書き改め石に刻つて長く伝えるものである  
横関豊龍書 藤澤群黄刻  
(碑裏面) 昭和三十三年四月二十九日 建

〜(中略)〜

明治二十二年十一月 枢密院顧問官正三位勲一等伯爵副島種臣撰  
付記 この碑文はもと漢文を以て記され銅碑に刻まれていたが太平洋戦争耐なるに及び昭和十八年八月政府の銅鉄回収運動に応じて献納した今回有志相謀り再建の議成り広島大学名誉教授正四位勲二等文学博士手塚良道氏並にそ

以上のように、この碑文には、信州の歴史や日本の国が成立した当時のことが書かれており、本当に面白いものです。一度、長野県上田市常田にある「科野大宮」さんを訪ねて、碑文を読んでみて下さい。きっと感動すると思います。  
※編集者注：原文を改変せず一部を割愛して掲載しました。詳細は次のホームページをご覧ください。太田和親著・和親記・科野大宮の碑から上田の歴史を考察  
<http://www.13.ueda.ne.jp/~ko52517/topp.html>から2番目の作品です。

### 訃報

OB会顧問の阿部祐之氏(五十六期)が平成二十六年六月二日に逝去された。享年七十四歳。

氏は戦後の剣道班発足時(上田松尾高校)のメンバーとして各種大会で活躍。また、OB会においては副会長、三代目会長、顧問としての運営に大きな功績を残された。上小中体連剣道部の副部長、部長としてもこの地域の中学剣道の発展に努力された。ご冥福をお祈りいたします。

## 『OB 対談・商売編』

今回は、上田市国分で蕎麦屋を経営している福崎直人さん(88期)に、お話を聞いた。司会は、佐藤博(76期)、金森健志(87期)。取材執筆正村聖美(80期)

【司会】どのような経路で現在のお仕事に就かれたか教えてください。

【福崎】上田高校を卒業し、一浪し、二年程設計の仕事に就きサラリーマンをしました。もともと作ることは好きだったので、母親が喫茶店を経営している関係で飲食業に興味を持ち、縁もあって上山田の割烹に入ったんです。割烹だったので寿司や魚もさばきました。そんな中で蕎麦打ちも経験し『蕎麦屋をやってみよう』という気持ちでだんだん強くなりましたね。30歳の時に独立して、ここの古い民家を改修して、『そば処くろつぽ』を始めました。

【司会】こだわりの部分は？

【福崎】上田ですから信州そばと思われと思いますけど、おいしい蕎麦粉があれば信州産だけでなく、全国の地粉を使用しています。現地まで行って、蕎麦を自分で手刈りして、天日干しにして確かめます。実は信州産、というブランドだけで値段も高くなるんですが、全国には美味しい蕎麦粉が沢山あるんですよ。生産者のわかる安心で安全な食材を提供したいと思っています。うちは、蕎麦粉は全て自分が直接確かめたものしか使っていないのでお客様に絶対の自信を持って提供しています。その他、鴨や野菜も、国産の

安心な原材料を使っています。

蕎麦引きは機械は一切使わず、自分の体力で石臼を回し、蕎麦の粉を引いて、打って、切って、作ってお客様にお出ししています。原材料の蕎麦を手刈りして、源流から最後の工程まで、自分の目で確かめてやるのが一番安心な方法だと思っています。でも正直なところ石臼を何時間も回す作業は、体力的に本当にきついです。

【司会】特徴などはありますか？

【福崎】蕎麦は、「二八蕎麦」です。『もりそば』が一番人気ですが、『鴨汁そば』や『天せいろ』など、様々なメニューもあります。活びあなごの天麩羅、にしんの旨煮美味しいですよ。元々割烹で修行してましたから魚を扱うのは得意なんです。それと鴨しゃぶ。鴨肉にはこだわっているんです。信州では以外と鴨が出ないんです。ですが鴨肉の美味しさをぜひ伝えたくて。美容にもいいんですよ。

【司会】こちらに来る時、看板が小さくてよくわからなかったのですが、あまり宣伝されていないのですか？

【福崎】わかりにくかったですか？すみません。あまり大きい看板は立てていません。一応、手作りのホームページはあるのですが。口コミで来てくださるお客様がほとんどで、土日は、県外のお客様が多いですね。有名人の方々も来られます。

【司会】サインももらって、壁に貼っておけば宣伝効果抜群ではないですか？

【福崎】そういうのは性に合わないの

でやりません。様々な方々においしく食べていただければうれしいですね。

【司会】『くろつぽ』というお店の名前は、どのような意味ですか？

【福崎】くろつぽって、ここ(国分)の地名なんです。地元の方々にも覚えてもらえるように、地名をそのまま使わせてもらいました。

【司会】この地元ご出身なんですか？

【福崎】中学までは朝日ヶ丘でした。四中から上田高校に進みました。その後実家は引越しましたけど。今はこちらのお店を自宅兼店舗にしています。

【司会】今までにハブニングなどはありましたか？

【福崎】二月末の大雪の日にお店に車が突っ込んで、破損。半月程休業せざるを得なくなりました。人が怪我がなかったのが良かったです。いつもは休みが取れないのですが、久しぶりに長い休みを取らざるを得なくなつたので、家族で旅行に行きました。

【司会】お忙しいようですが、毎日どのようなスケジュールですか？

【福崎】朝五時頃から、そばを打ち始めます。練る、打つ、切るの繰り返しです。土日は特に忙しいです。お盆やゴールデンウィーク、特に年越しは三時くらいから取り掛からないと間に合いません。その時は、自分ほとんどそば打ち機械になってますし、気がつくとも何日も、このお店の敷地内から外に出てませんね。(笑)

【司会】上田のそばは量が多いとよく言われていますが、その件について何かご存知でしょうか？

【福崎】東京などから比べれば多いと思います。昔からの田舎の習慣、おもてなしの気持ちですかね。こんな逸話を聞いたことがありますよ。昔、上田のある蕎麦屋さんのご主人が、外で長いことお待ち頂いているのが申し訳なく、いつも蕎麦を大盛りに出して出しており、それが何となく広まったとか。真偽の程はわかりません。

【司会】いつ頃剣道を始めたんですか。何かきっかけとかあればお話しください。

【福崎】小学生の時に「かっこいい」と思って四年生からやり始めました。城下小学校で日曜日の朝から稽古があり、西澤貞二先生(剣道スポーツ少年団城下教室・上小剣道連盟元会長)が教えてくださいました。

【司会】中学時代は、いかがでしたか。

【福崎】四中は、その頃人数が多く、一学年で10クラスもあって、剣道部の部員は80人位いました。稽古する場所がなく、体育館のステージでやっていました。

【司会】高校時代はどうでしたか。

【福崎】入班してすぐに坊主にされたのが強烈な思い出です。期待されていた先輩方のチームが敗退してしまい、気合いを入れる為という事で。坊主頭だけは絶対いやだったので、一瞬入班を戸惑いました。金森先輩(87期)や、シブ先輩(中沢秀敏86期)たちが燃えていました。

結局剣道場で、先輩が後輩一人ひとりをバリカンで刈ってしまい、自分も坊主にされて、剣道も続けました。

三年生のチームに二年の自分が先鋒に抜擢されましたが、全国に届きませんでした。その後代替わりして、新人戦の大会では県大会優勝。全国大会に選手として出場できました。稽古の時は、OBの先輩方がたくさん来てくださっていました。

【司会】私(金森)の当時は、午後四時から午後六時までの稽古時間だったのですが、近藤敏朗先輩(82期)がい

らっしゃると、皆「あ、近藤先輩が来た！」と。一人に一時間位、きつい稽古でしたので、かなり緊張しました。【福崎】先輩方から、色々教えていただけで、ありがたいですよ。

【司会】現在も現役生のために、たくさん先輩が都合をつけて稽古に来てくださっていますよ。

【司会】今後の抱負はどうですか？

【福崎】夜の時間帯に、自分の好きな形のお店をしたいと思います。昼の時間帯は食事を中心になってしまいがちですが、夜の部では、お酒を飲んで、気の利いた肴を楽しんでもらったり、雰囲気味わってもらえるような店作りをしたい。今まで体力にまかせてがむしゃらにやってきましたので、そろそろ、ちよつと趣味的にやる時間も欲しいな、なんて事を夢にしています。

【司会】現役の後輩にアドバイスをお願いします。

【福崎】剣道をやっていて、しっかりと



左・福崎直人氏 (88 期)  
右・金森健司氏 (87 期)

定番のもりそば

お店入り口

した上下関係や、『根性』が身に付き、将来に役立ったと思います。いい思い出も作りながら、頑張つて欲しいと思います。

【司会】 武道をやることによって社会で必要とされる礼節、我慢する心、人間関係のあり方が自然と身に付いていると思います。このお店のアルバイトの採用で何か感じる事はありますか？

【福崎】 正直 15 分位の面接ではよくわからないですが、明るくて元気のいい子を採用するようにしています。

【司会】 最後にお店の宣伝でも。

【福崎】 夜の営業を自分の好きな形にしたいのと、もつと上田の中心でふらつと歩いて来てもらえるような店作りを目指して、来春移転を計画しています。皆さんぜひ一度いらして下さい。

# 剣道今昔

## 顧問報告

倉石 典広

OB・OGの皆様に導かれ、本年度も無事、多くの大会で結果を残してまいりました。

県総体では、男子が準決勝で敗れたものの、三位決定戦で勝利をおさめ、北信越大会に出場。女子は、決勝リーグ一回戦で敗れたものの、優

## 平成 26 年度戦績

- 新潟県春季剣道錬成大会 (4月1・2日)
  - 男子 2 回戦 女子 2 回戦
- 第 10 回謙信公杯争奪高等学校剣道大会 (5月4日)
  - 男子 準々決勝 女子 2 回戦
- 第 155 回東信高等学校体育大会 (5月17・18日)
  - 男子個人 杉田竣 1 位 白鳥泰士 7 位 我山能崇 8 位
  - 男子団体 2 位
  - 女子個人 正村薫 5 位
  - 女子団体 2 位
- 長野県高等学校総合体育大会 (6月7・8日)
  - 男子個人 我山能崇 5 位
  - 男子団体 3 位
  - 女子団体 ベスト 8
- 北信越高等学校剣道大会 (6月21・22日)
  - 男子個人 我山能崇 2 回戦
  - 男子団体 予選リーグ敗退
- 剣道班 OB 会宮下杯 (6月28日)
  - 男子 1 位 我山能崇 2 位 白鳥泰士
  - 女子 1 位 正村薫 2 位 深井美希
- 東信高等学校剣道選手権 (7月21日)
- 上小高等学校剣道リーグ夏季大会 (7月27日)
  - 男子 4 位
  - 女子 3 位
- 玉竜旗杯剣道大会 (7月25・27日)
  - 男子 2 回戦
  - 女子 1 回戦
- 第 7 回真田幸村杯剣道大会 (9月14日)
  - 男子 2 回戦
  - 女子 2 位
- 第 40 回東信青少年剣道大会 (9月28日)
  - 男子 3 位
  - 女子 1 回戦
- 第 156 回東信高等学校体育大会 (10月18・19日)
  - 男子個人 我山能崇 1 位
  - 男子団体 4 位
  - 女子団体 3 位

「今」  
平成二十六年

勝校相手に健闘を見せました。

三年生が引退した後は、男女ともなかなか結果が出ない日々が続いておりましたが、新人戦東信大会において、男子個人で我山が優勝、男子が 4 位、女子が 3 位で、それぞれ県大会への出場を決めました。

## 第 22 回諏訪湖大会 (11月9日)

- 男子 2 回戦
- 女子 2 回戦

## 平成 26 年度長野県高等学校新人戦体育大会 (11月15・16日)

- 男子個人 我山能崇 2 回戦
- 男子団体 2 回戦
- 女子団体 2 回戦

## 新任の挨拶

はじめまして。本年度から顧問を務めさせていただいております、理科の倉石典広と申します。皆様には日頃から多大なお力添えをいただき、感謝の念に堪えません。

私は、昨年度に初任で上田高校に赴任いたしました。出身は長野市で、中学では陸上部、高校では生物班に所属しておりました。大学・大学院では、東南アジアを主なフィールドとしてカエルの研究をしていました。大学院修了後は研究を続ける傍ら、高校教員や短大の講師などをして食いつないでおりました。剣道の経験も顧問としての経験もない未熟者ですが、コーチの近藤先生・滝浪先生をはじめとする OB・OG の皆様、もう一人の顧問である鈴木先生、前任の神津先生、そして生徒たちに支えられて、何とかこれまでやってきました。

生徒たちが、自分で考えて行動できる人間に成長できるように、私も頑張つてまいります。今後とも今の剣道班を温かく見守っていただければ幸いです。よろしくお願いたします。



# 昔 今 道 剣

## 擊 劔 部 記 事

春秋二期競技會は例年の通り五月廿八日十月三十日衛日雨天操場が開かれぬ參集せる劔客何れも秘をつくえて突くあり打つあり進退自由しかも姿勢の他に比おき禮儀の正しきは實に小野田先生の熱心なる劔教授の賜とも云ふべきなり此の競技會に於て名譽ある一本勝負三人扱の士は左の諸氏なり

- 春季三人扱の士
    - 今井真七郎 九山 勝正 小沼 富三
    - 宮原 英治 佐藤喜美三 町田 暢夫
  - 秋季三人扱の士
    - 南澤 博 九山 勝正 長岡 六郎
    - 柳澤朝一郎
- 氏二度の競技會は懇篤なる小野田先生の薫陶と熱心なる部員の練習に依りて十二分に修飾せられたり部員諸士益々勉勵せられよ
- 五月十五日 助手を命せられたるもの次の如し
- 山本 亮助 翠川 國平 柳澤朝一郎
  - 安川 彦五 中曾根吉雄 町田 暢夫

## 昔 明治四十年

十一月三日 天長節の佳辰に於て成績優等の賞として銀牌を受與せられたるもの左の如し

- 山本 亮助 翠川 國平 柳澤朝一郎
- 中曾根吉雄 町田 暢夫 佐藤喜美三
- 佐藤 雅雄 池内 正方 佐々木英一

四十二年一月廿五日より二月十三日迄(二十日間)毎朝五時半より七時まで寒稽古を行へり此際皆勳証書を授與せられし熱心家は左の四名なり

- 佐藤喜美三 長岡 六郎 津田 弘

願ふは部員諸士以後毎歳寒稽古を開き新道に奮勵せられよ

野中との試合 九月二十二日野澤中學校擊劔部選手 星野虎四郎 關川石禪 小山朝丸 戸塚勇三 石喜造の諸士來田試合を申込み我部選手又望む所ありしかば十時三十分直ちに試合開始す

日頃鍛へに鍛へし手練を顯さめと竹刀手にして立上り掛聲諸共日々發止火花を散らして取り有様となりながら阿虎の深山に闘ふに似たり龍と追り虎と闘き千變萬化神板百出秘に秘をつくして掛合吾校選手の有様に歎賞するの外なし

次の組合により我部選手の秀腕如何を伺ふ事を得べし

- ◎小手面 I (三石 喜造 (野中))
  - ◎突小手 2 (戸塚 雅雄 (野中))
  - ◎胴面、面 3 (佐藤 喜美三 (野中))
  - ◎小手 4 (關川 石禪 (野中))
  - ◎小手、小手 5 (星野 虎四郎 (野中))
  - ◎小手、小手 6 (町田 暢夫 (野中))
  - ◎面、面 7 (中曾根 吉雄 (野中))
  - ◎小手、面 8 (柳澤朝一郎 (野中))
  - ◎面、面 9 (翠川 國平 (野中))
  - ◎小手、小手 10 (山本 亮助 (野中))
  - ◎小手、面 11 (星野 虎四郎 (野中))
  - ◎小手、面 12 (山本 亮助 (野中))
- 當日我部選手の組合
- ◎山本 亮助 (上中)
  - ◎小池 澄 (師範)
  - ◎柳澤朝一郎 (上中)
  - ◎千野 實 (松商)
  - ◎町田 暢夫 (上中)
  - ◎矢嶋 俊作 (松商)
  - ◎翠川 國平 (上中)
  - ◎堀 義雄
  - ◎中曾根 吉雄 (上中)
  - ◎星野 虎四郎 (野中)

明治四十年十月十八十九兩日松本中學校に於て第六回縣下中等學校聯合大運動會は開かれぬ待にくたる聯合運動會は來れり我部の選手勇氣滿身に溢れ我こそは云はぬばかりの面持して松本城下に乗り込みたり明くればいよ十八日合闘の喇叭と諸共に會場へぞ押寄たる集へたる各校選出勇士五十名席を列ねて控へたり見るから炯々たる眼光嚴然たる容貌勇氣滿々たる態度真に各校選抜の剛の者と見受られたり公平果斷を以て知られたる我部の師範小野田先生の審判の下に試合は始りたり

如何に勝敗は時の運なりとは云へ去ぬる年名を縣下に轟かせし我部の御大將を始とし復將として其名聞し老練の翠川氏相前後して敗北せり續いて柳澤氏又驚る嗚呼何ぞ老將振はざる

新進の中曾根氏野中の御大將星野氏と戦て分たり此れも剋陣しかも長く病床に臥せし町田氏を其と勝敗如何思の外見事闘の重打ち血打ふつてぞ凱旋す午後の三人扱に於ても又吾が選手振はず只翠川氏の二人扱たるあるのみ嗚呼何たる不成蹟を我

校未曾有の敗北たり先輩諸士の顔に泥せる昔等選手の罪如何に多大なるか

小野田先生一詩を送られて曰く

今日雖敗勿喪心 明日又有得勝期  
不撓不屈不如學 他日斯道究奧旨

どあり幾度暗涙に咽まか  
松本古城の老松はどこしへ吾を笑はん俄然として立てる天主閣又吾を罵るが如し  
老松笑はハ笑へ 汝天主閣罵らば罵れ  
一意専心又來ん年の晴の舞台には必ず芳名を懸下に轟かして見せん

今三敗將は此の未曾有の大耻辱を雪がすして親しき母校を去らんとす嗚呼願くは部員諸士臥薪嘗膽以て他日此の大耻辱を永遠に雪がれん事を、切に希望す(R.Y.生)

## 剣道班・アーカイブス

当剣道班OB会では、明治～大正～昭和に至る貴重な写真を関係者のご協力を得て収集し、後世に残す為データ化した。それらの中から貴重な写真を紹介する。



第三回武徳祭演武大会優勝旗を持つて旧制上田中学(現・上田高校)正門前列向かつて左端新井守太郎師、右隣伊藤長三先生

## 会員のひと言コラム

通信欄（葉書及びホームページより）

同期の大森君が昨年他界しました。

（74期山田恒昭）

当日の稽古にむけ、及ばずながら準備したいと思います。（73期山浦一雄）

この度はご案内状、有難うございます。ご連絡が行き届かず申し訳ありません。父善治は平成24年他界いたしましたことをご報告させていただきます。

総会のご盛会お祈り申し上げます。（44期滝沢善治・家族）

（44期滝沢善治・家族）

年をとれば時間のゆとりが出来るかと思っておりますが、益々忙しくなっています。（66期清水通男）

（66期清水通男）

毎年ご案内いただき恐縮。小生兄が故人となり、杯を寄贈いたしました宮下杯トーナメントが長く継続され、ありがたい次第。毎年大会と重なり本年も残念ながら欠席ですみません。小生、昭和20年（終戦の年）に二段を取得したまま剣道は止めてしまいました。兄はシベリア抑留から帰国した後も続け、七段まで進みました。若い部員さん方の奮闘を祈念。

（44-4期宮下英世）

生徒の大会と重なる為に欠席とのこと。皆様によりしくお伝えください。

（88期田村 敦・母代筆）

所用があり欠席します。先輩の皆さんによりしくお伝えください。

（68期山崎博久）

謹啓 貴会益々ご盛会のことお喜び致します。私も早くも74歳。可もなく不

可もない老人生活を送っております。

堀内先輩（56期）が亡くなって何年になりですか？もう少し世に憚っていたいものと思っております。ご盛会を祈ります。（57期田中義司）

（57期田中義司）

佐藤博君と旧制上田中学の剣道部を御指導頂いた新井守太郎先生の著作「喜寿の安由身」を復刻出版した。限定20部であるが、上小地域の明治大正昭和の剣道界を知る上で貴重な資料である。今後、更に保存され、当時を知るための研究に役立ってもらえればと思っております。（61期羽田敏幸）

（61期羽田敏幸）

所用にて失礼します。昨年同期の大森信吾が永眠しました。さびしいですね。

（74期関戸啓司）

いつもご案内いただきありがとうございます。皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。（73期大島英穂）

（73期大島英穂）

ごぶさたをしております。都合で行かれませんが、ご盛会をお祈りしています。

（76期松井 敦）

剣道班の皆様のご活躍を祈念しております。（74期関口悦子）

（74期関口悦子）

地元少年剣道クラブに週一回で参加させていただいています。（指導といえる様なことはできませんが・・・）

（107期青木清華）

皆さんお元気そうで何よりです。平成20年9月22日逝去いたしました。

（74期財前尚江）

旧顧問の神津君が転勤された今、OBが結束して後輩の現役生を支援し、夢

（42期柳沢 敬・長男元也）

であるインターハイ出場を叶えてやりましょう。（64期春原和民）

今年もゴールデンウィークは京都での剣道八段審査会の見学と武徳殿での京都大会に出場してきました。生涯剣道を目指します。（62期飛田武昭）

（62期飛田武昭）

幹事お疲れさまです。信州へ帰ることも殆どなくなり、故郷は遠くにありて思うもの、となつてしまいました。OBの皆様の益々のご発展をお祈りいたします。（77期大石敦子）

（77期大石敦子）

毎年出席できず残念です。お送り頂いている広報を見るのが楽しみです。皆様のご活躍を応援しています。（83期山本和佳）

（83期山本和佳）

いつもご連絡くださりありがとうございます。都合により今回も欠席させていただきます。間もなく後期高齢者になります。幸い元気に過ごしております。上田高校の皆様、卒業生の諸兄

（73期大島英穂）

のご健勝とご活躍を祈ります。連絡先の住所は変更になっております。よろしく。（56期大日方昂）

（56期大日方昂）

元気にしています。ご安心ください。皆さんの顔を見たいのは山々ですが、

（74期関口悦子）

京都は遠いですね。4月に法事で帰省し、荒井、清水とゴルフを楽しみました。昔の仲間はいいものですね。皆さんによりしく。（59期香山 博）

（59期香山 博）

娘が3年生になり、最後の大会となります。全力出せるように健康面でサポートしたいと思えます。（80期正村聖美）

（80期正村聖美）

アメリカカボストンにおります。しばらくは出席できません。皆さんによりしくお伝えください。（93期小川原正道）

（93期小川原正道）

幹事の皆様お役ご苦労様です。今年も優秀な成績が収められるよう現役諸君

（112期清水 和）

の健闘を祈ります。又、盛会をお祈りいたします。（58期保科紀丈）

お世話様でございます。この春進学し、群馬におります。あいにく当日は参加することができません。申し訳ありません。優勝カップは代わりにお届けしたいと思っております。よろしくお願ひいたします。（112期滝澤牙毅・母代筆）

OB会総会通知拜見ご苦労様深謝申し上げます。小生91歳。久々に稽古を拝見し総会懇親会に出席したいのですが、遠方ゆえ欠席をお許しください。ご盛会を祈ります。（40期渡辺卓郎）

（40期渡辺卓郎）

切れたアキレス腱もつながり、怪我しないように細々と剣道再開しています。（82期中沢道彦）

（82期中沢道彦）

いつもありがとうございます。当日中学生の大切な大会（北信大会）があり、終了しましたら参ります。総会には間に合わないかもしれませんが、ご了承くださいます。（82期近藤敏朗）

（82期近藤敏朗）

法務が入っておりますので、失礼をさせていただきます。皆様によりしくご風声の程お願い申し上げます。（54期桑沢俊猛）

（54期桑沢俊猛）

今年に入り仕事が多忙となり、昨年までのように思い通り稽古ができません。皆様によりしくお伝え下さい。（93期加藤篤史）

（93期加藤篤史）

いつも連絡ありがとうございます。当方腰を痛めて以来、剣道から遠ざかり弓道をやっております。貴会のご成功を祈念いたします。（元顧問・丸山 温）

（元顧問・丸山 温）

遅くなり申し訳ありません。（112期清水 和）

（112期清水 和）

4月から転勤で伊那市におります。（83期石井信幸）

（83期石井信幸）

農繁期のため出席できません。皆様によりしくお伝えください。よろしくお願い申し上げます。（75期渡邊隆信）

（75期渡邊隆信）

残念ですが2年連続の欠席となります。ロンドンオリンピック、冬季オリンピック、なでしこジャパン他スポーツでの日本人の活躍は元気の源になります。剣道班のご健闘を祈ります。（59期清水 和）

（59期清水 和）

返信遅くなってしまい、すみません。上田高校剣道班の活躍楽しみにしています。（106期保坂 純）

（106期保坂 純）

残念ながら今年も出席できません。皆様によりしくお伝えください。（70期安藤 哲）

（70期安藤 哲）

生まれつきの股関節障害が見つかり手術、2ヶ月余入院をしました。障害を知らず稽古にあけた頃が懐かしいです。当面松葉杖、自宅療養生生活です。先輩方、同期に励ましのメール、お手紙を戴き、復帰にむけ頑張っています。本当に感謝です。（86期柳澤英子）

（86期柳澤英子）

上小に戻り、現在上田市立塩田中学校の顧問をしています。当日は中体連東信大会のため欠席させていただきます。申し訳ございません。（92期油井幸樹）

（92期油井幸樹）

現在、上田高校にてサッカー班の顧問を担当しています。当日はリーグ戦のため参加できません。総会が盛大に開催されますこと、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。（元顧問・小宮山勝人）

（元顧問・小宮山勝人）

### 宮下杯優勝者の声



**【男子優勝】二年百十四期 我山能崇**  
夏の大会が終わり、新体制になり、私はこの宮下杯を迎えました。今まで私たち後輩を剣道で、また生活の面で牽引してくださった先輩方の引退前最後の試合でした。これまでの感謝と私たちの成長を伝えられるように大会に臨みました。結果として私は優勝でき、また他の一、二年も試合でなにか伝えられ、そして感じたものがあるよい大会になったと思います。

ですがそれと同時に、これで完全に代替わりとなりました。しばらくの間はぎこちない、身の入らない稽古が続き、三年生の先輩方の存在感の大きさを実感しました。しかし私たちの目標は「インターハイ出場」ということを班員全員で再確認することによって徐々にではありますが稽古がよいもの変わってきています。今年と同じ目

標で同じ練習をしているのでは最高でも今年と同じところまでしか手が届きません。来年の大会でより上を目指すのであるのなら練習を変えていかななくてはなりません。ですが使える時間は変わりません。より内容の濃い、質の高い稽古を目標としていきたいと思えます。

また普段から練習ができ、大会へ参加できるのは保護者の皆様、OB会の皆様の支えがあつてこそです。本当にありがとうございます。班員一同、感謝を忘れずにより良い成績を残せるようにしていきたいと思えます。

### 現役生の声

**【女子優勝】三年百十三期 正村 薫**  
私にとって高校生活最後の大会となった宮下杯で優勝することができ、とても嬉しく思います。OBの先輩方や、先生方が見守る中で緊張しましたが、日頃の練習の成果を出すことができ、自分らしい試合ができてよかったと思います。試合後の先輩方との稽古では、様々なアドバイスを聞き出すことができました。

届きませんでした。結果としては悔いが残る試合でしたが、剣道を通じて得た三年間の数々の貴重な体験は、今後の私の中に生きていくと思つていきます。

最後に、いつも支えていただいていた先生方、保護者の方々、三年間共に戦ってくれた仲間たちに感謝を申し上げますと思います。ありがとうございました。

**【班長】三年百十三期 白鳥泰士**  
私はこの上田高校剣道班に入班し、班長を務めさせて頂いたことを大変光栄に思います。二年間の班活の日々を終え、今に残っていることは全員剣道のすばらしさです。班長として過ごした一年間は、このすばらしさを追いつめるための一年間であつたのではないかと私は思っています。

私が中学生のときに、兄の一つ上の代の先輩方がインターハイに出場しました。私はそれに憧れ、自分もインターハイを目指して剣道をしたと思います。伝統ある上田高校剣道班に入班しました。

日々、先生の教えを受けながら、仲間たちと稽古に励み、目標実現に向けて努力を重ねてきました。昨年は、個人戦、団体戦ともに北信越大会に出場しましたが、今年は残念ながら目標に

上田高校に入学し、私は道場の雰囲気と、先輩方の練習時間の短さを感じさせない強さに魅せられ、剣道班に入班しました。そしてその夏、自分にとって圧倒的な存在であつた先輩方の惜敗を目の当たりにし、インターハイという存在の大きさを実感すると同時に、自分もこの大きな存在に挑戦したいと強く感じました。

百十三期へと代替わりして、一年前の決意の通りインターハイを目標に立てました。短い練習を意識し、頭を使い内容の濃い稽古を心掛けたつもりで



した。しかしながら大会に出場しても成績を残すことのできない日々が年を越しても続き、自分の班長としての力の無さを痛感しました。あの頃の絶望を忘れる事はないでしょう。最後の大会への焦りの中で、自然と「全員剣道」の雰囲気の中で大きくなっていくように感じました。さらにこの雰囲気は私達に大きなエネルギーを与えてくれました。そして迎えた最後の大会、この見えないエネルギーに押されながらも準決勝で敗退、改めてインターハイの大きさを知りました。しかし、最後の最後に辿り着いた「全員剣道」という力が私達に足りなかつた物であり、二年前に憧れた上田高校の強さの正体であると私は思います。

最後まで全員剣道の大切さに気がつかなかつた力の無さは本当に悔やまれます。しかしこの頼りない私を信じてくれた仲間と過ごした日々は他には決してない宝です。剣道の純粹な楽しさを感じさせてくれて本当にありがとうございます。

この二年間は、顧問の先生方、保護者の皆様、OBの先輩方のお支えによりここまで充実したものになりました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 編集後記

三月まで剣道班をご指導してくださった神津先生が異動された。副顧問をされていた鈴木先生が引き続き副顧問を引き受けて下さり、正顧問には赴任二年目の倉石先生が就任された。剣道経験者ではないため、OB有志を中心に実技指導をしている。後輩諸君は一生懸命に稽古に励み、それぞれの目標に向かって精進して欲しい。

一月二日OB稽古会のお知らせ  
(有志主催)  
日時平成27年一月二日  
午後一時～OB対現役試合終了後稽古会  
上田城跡公園剣道場※注：例年とは会場が異なります。休館日特別借用の為、南側の剣道場非常口からお入り下さい。  
●午後六時～懇親会 大門町「さや」(五時半より受付) 会費5000円  
※幹事(一〇九期) 下形 将央  
090・5444・1027

OB会ホームページ <http://www.sinsyu.or.jp/~kendou/>  
会員制掲示板ID: ueda パスワード: 1111

**来年度のOB会総会は  
6月20日(土) 予定**

●来年度会費納入のお願い●  
会費(三千元) およびご寄付の納入は、十二月末日までお願い申し上げます。

○住所変更の方は幹事長まで  
七十七期 山崎 完爾  
〒386-0004  
上田市殿城一三八八一四  
事務局 uken\_ob1955@gmail.com